



関係会社との一体感を持った連結経営を目指す三井物産の関係会社の会である「東京三栄会」。その最新の活動状況を紹介します。第14回は、「第28回東京三栄会通常総会」での増田東京三栄会会長の発言内容をご紹介します。

お問い合わせ先:事業管理部企画室 東京三栄会事務局 ☎7569
eメールアドレス: SaneikaiTKAOI@mitsui.com
東京三栄会ホームページ: <http://www.san-eikai.or.jp>

第二十八回東京三栄会通常総会を開催 増田会長が今後の方向性を示唆

「第二十八回東京三栄会通常総会」が二〇〇七年十一月三日、三井物産十二階会議室で開催されました。席上、増田東京三栄会会長（三井情報(株)社長）から所信の表明があり、その中に今後の東京三栄会の進むべき方向性なども垣間見えますので、その概要をご紹介します。

増田潤逸

東京三栄会会長
(三井情報(株)社長)

グループ企業が 一体となって対応

先日公表された三井物産の業績は引き続き好調で、今年度史上最高の決算になると予想されています。その中で東京三栄会会員各社も多大なる貢献をしていると聞いています。



発言する増田東京三栄会会長

ています。二〇〇六年に新会社法が施行されたことにより、グループ企業一体経営でもいっぺき方向性が明確になってきました。定量的な貢献はもちろんのこと、CSR、コンプライアンス、内部統制などの定性面でもグループ企業が一体となって対応することが強く求められてきました。

会員相互の交流を拡大が最大のミッション

東京三栄会は、会員同士の情報交換や親睦を主たる目的として設立された自主的な任意団体です。一方、グループ企業一体経営の時代である現在、三井物産グループ企業の一員としての社会的責任を問われるようになってきたと考えています。こうした独立企業間の交流という東京三栄会の趣旨を生かしつつ、グループ企業一体経営という社会的要請を両立させるべく、グループとしての一体感の醸成を目的として、この一年活動をしてきました。具体的には会員企業社員間の交流を通してのグループ意識の向上です。研修やスポー



総会后、懇親会を楽しむ会員の皆さん

ツ交流、社会貢献活動を含めた文化交流など、多くの社員の当該活動への参加を経て交流の輪が広がりました。今後も会員相互の交流を拡大し、そのお手伝いをするのが東京三栄会最大のミッションであると認識しています。

当会活動を担う委員の必要性が増す

この一年で、東京三栄会を取り巻く環境は大きく変化しました。その顕著なものは会員企業数の減少です。二〇〇六年には百六十五社であった会員各社が、二〇〇七年は百三十八社になりました。三井物産による関係会社統廃合という方針の下、今後、減少を続けることが予想されます。ただし会員

企業で働く社員の数に大きな変化はありません。すなわち、当会の活動対象となる社員数は変わらないもの、会費を払つ企業数が減ったということです。予算は厳しくなっていますが、私たちの活動範囲、領域を今後とも拡大していく方向性に変化はないと考えています。従って、現在でも不足している各委員会や各部会活動を担う委員の必要性がますます増してきました。東京三栄会の活動は、ボランティア的な活動によって成り立っていますので、ぜひとも、まだ委員を出されていない会員企業からも委員を出すようにご配慮頂きたいと思っております。

*

東京三栄会の最新の活動状況などについては、東京三栄会のホームページをご覧ください (<http://www.san-eikai.or.jp/top.html>)。活動計画と報告、三栄会の会員各社紹介、三栄会が年三回発行している『サンエイニュース』などをご覧頂けます。

(東京三栄会広報委員長

日本ユニシス(株)/前田記)